

教育研究業績書

氏名 北川真寛

著書、学術論文等の名	単著 共著 の別	発行又は 発表の年 月	発行所, 発表雑誌又は 発表学会等の名	概 要	編者・著者名 (共著の場合のみ記 入)	該当 頁数
<著書>						
傍訳 弘法大師空海・事相編1	共著	平成15年12月	四季社	『平城天皇灌頂文』の書き下し、傍訳による現代訳、解説を担当した。	宮坂有勝・大沢聖寛・佐藤正伸・佐々木大樹・土居夏樹	201～306頁
はじめての「弘法大師信仰・高野山信仰」入門	単著	平成30年5月	セルバ出版	弘法大師空海とはいかなる人物かを先行研究も交えながら絵伝によって解説し、弘法大師や高野山に関する信仰についても図版や写真を多用しながら紹介した。		全151頁
はじめての「弘法大師と高野山のおしえ」入門	単著	令和4年6月	セルバ出版	弘法大師空海が説いたおしえとはいかなるものかを先行研究も交えながら解説し、そのおしえが今に伝わる高野山についても図版や写真を多用しながら解説した。		全151頁
<論文>						
『溪嵐拾葉集』における浄土思想	単著	平成13年12月	『密教文化』207	中世天台宗の百科辞書的な『溪嵐集』を検討し、多様に説かれる浄土思想を論じた。(査読有)		1～32頁
『溪嵐拾葉集』における蘇悉地説の展開	単著	平成14年11月	『天台学报』44	台密においては、東密の金胎両部に対して金胎蘇三部を立てていて、『溪嵐集』の記述を基に、その問題点を検討した。(査読有)		117～122頁
『溪嵐拾葉集』にみる東台両密の交流 -特に如意宝珠を中心として-	単著	平成16年3月	『密教学研究』36	東台両密で重要な教説である如意宝珠が、中世において多様に展開されていることを『溪嵐集』の記述を中心に論じた。(査読無)		65～80頁
古義真言宗の近代社会事業史概観	単著、研究ノート	平成16年9月	『日本仏教社会福祉学会 年報』35	他宗派に比べてほとんど論じられることのなかった、明治～昭和初期の(高野山の)真言宗の社会事業について概観した。(査読有)		57～70頁
『溪嵐拾葉集』における禅宗観について	単著	平成16年12月	『印度学仏教学研究』53-1	天台宗の書物である『溪嵐集』では、『釈論』や『十住心論』を用いて独自の禅宗批判が行っていることを論じた。(査読有)		54～56頁
「一乗経劫」について -即身成仏思想に関する問題-	共著	平成18年2月	『高野山大学密教文化研究所紀要』19	即身成仏思想について、華嚴・天台の成仏論との関連を問題とした「一乗経劫」について、天台宗における議論と共に検討した。(査読有)	土居夏樹	43～70頁
『高野山時報』に見る真言宗の社会事業 -特に高野山真言宗(古義真言宗)を中心として-	単著	平成20年3月	『密教学研究』40	『高野山時報』を中心として、明治～現代までの古義真言宗(高野山真言宗)の社会事業(社会福祉)を概観した。(査読無)		33～51頁
東密における三密行について -論義とその背景としての浄土思想を含めて	単著	平成21年5月	『日本仏教総合研究』7	身口意の三密行について、一密による成仏も可能か否かを論じる「三密双修」を取り上げ、古義と新義の主張の差違や浄土思想も含めて論じた。(査読有)		31～47頁
『中壇・自行略次第』について	単著	平成26年3月	『密教学会報』52	弘法大師の種子としてユ字が用いられる淵源となる可能性を持つ『中壇・自行略次第』について検討した。(査読有)		126～146頁
東密における六度行について -論義書を中心に-	単著	平成26年3月	『高野山大学密教文化研究所紀要』27	東密において六度行の位置づけを問う「事六度」を取り上げ、三密行との関係、布施行として身命を施すことの見解を考察した。(査読有)		1～26頁
東密における護身法の展開 -護身法灌頂を中心に-	単著	平成27年3月	『密教学研究』47	『護身法灌頂』の作者に関する問題、野沢両流における流布の状況などを検討し、護身法が灌頂と結びつけられ展開していったことを考察した。(査読無)		95～112頁
綵画画像について -論義書を中心に-	単著	平成28年3月	『密教文化』236	自性法界宮に綵画された画像が存在するの否かを論じる「綵画画像」を取り上げ、事相的課題も取り上げて論じた。(査読有)		65～87頁
五仏心王について -論義書を中心に-	単著	平成29年3月	『高野山大学密教文化研究所紀要』30	五仏がともに心王であるのか、大日のみを心王と認めるかを論じる「五仏心王」を取り上げ、唯識や三論の教説、『異本即身義』の偽撰問題も含めて考察した。(査読有)		1～24頁
一門普門について -論義書を中心に-	単著	平成30年12月	『密教文化』241	一門と普門が大日と曼荼羅諸尊のいずれに当たるか、その徳は両門に通じて等しいものか別なるものかを論じる「一門普門」を取り上げ、事相的課題も視野に入れつつ検討した。(査読有)		1～21頁
報身報土について -論義書を中心に-	単著	令和2年3月	『智山学报』69	『釈論』に関する論義であり、阿弥陀の身土が報身報土か化身化土かを論じる「報身報土」を取り上げ、他宗の教説も含めて考察した。(査読無)		257～277頁
『秘蔵宝鑰』の訳註研究 -巻下・第八一道無為心-	単著	平成30年3月	『高野山大学密教文化研究所紀要』別冊・『秘蔵宝鑰』の研究3	密教文化研究所で行われた弘法大師著作研究会の『秘蔵宝鑰』訳註研究の内、第八「一道無為住心」を担当した。		1～26頁
吽字義の訳註研究 -「訶字の実義」～「阿字の実義(広説)」-	単著	令和3年3月	『高野山大学密教文化研究所紀要』別冊・『吽字義』の研究	密教文化研究所で行われた弘法大師著作研究会の『吽字義』訳註研究の内、「訶字の実義」～「阿字の実義」を担当した。		31～56頁
吽字義の訳註研究 -「汗字の実義」-	共著	令和3年3月	『高野山大学密教文化研究所紀要』別冊・『吽字義』の研究	密教文化研究所で行われた弘法大師著作研究会の『吽字義』訳註研究の内、「汗字の実義」を担当した。	川崎一洋 土居夏樹	57～142頁

『溪嵐拾葉集』の研究 -日本密教の観点から-	単著	平成17年提出	博士論文	学位請求のために提出したもので、『溪嵐集』諸本の研究を始め、『溪嵐集』に説かれる神道・浄土思想・天台教学・禅宗などの教説について、密教を軸として中世思想を考察した。	全207頁
〈その他〉					
法談論義拾葉集 -宗義篇-	編集、 ならび に解説 の執筆	平成30年6月	高野山住職会・ 高野山大学 密教文化研究所	高野山で現在も続けられている宗義に関する問講の原稿を収集・編集・校訂した。さらに各論題ごとに解説を付し、内容理解の一助とした。	—
弘法大師の種子は、 なぜ「も」なのか？	単著	令和2年1月	『六大新報』4514(別 冊)	弘法大師の種子としてなぜ「ユ」字が用いられるのかを解説した。	—
法談論義拾葉集 -釈論篇-	編集、 ならび に解説 の執筆	令和2年3月	高野山住職会・ 高野山大学 密教文化研究所	高野山で現在も続けられている『釈論』に関する問講の原稿を収集・編集・校訂した。さらに各論題ごとに解説を付し、内容理解の一助とした。	—
真言宗の論義について -高野山における現況-	単著	令和2年6月	『真言教学』1	高野山における論義法会や問講のシステム、状況について解説した。	51～53 頁
「三密双修」について -古義 篇-	単著	令和2年6月	『真言教学』1	身口意の三密行について、一密による成仏も可能か否かを論じる「三密双修」を取り上げ、古義の主張を解説した。	82頁～ 91頁
聖徳太子信仰と 弘法大師信仰の接点	単著	令和3年6月	『六大新報』4558・ 4560	聖徳太子と弘法大師両者の信仰には、仏法の弘通・衆生の救済・超宗派の信仰といった共通点があり、そこに日本人の信仰の形態の理想像があることを解説した。	—
学会報告・講演・講座については省略。					